

9. 参考資料

(1) 災害伝言ダイヤルの利用方法

＜災害伝言ダイヤル（NTT）＞
一般電話や公衆電話、携帯電話

○利用方法

「171」をダイヤルし次の音声案内に従い操作します。
こちらは災害用伝言ダイヤルセンターです。録音される方は「1」、再生される方は「2」、暗証番号を利用する録音は「3」暗証番号を利用する再生は「4」をダイヤルしてください。

○共通操作

①被災地の方はご自宅の電話番号、または連絡を取りたい被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルしてください。被災地以外の方は連絡を取りたい被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルしてください。

(ア) 電話番号を入力

②録音する場合（暗証番号を利用する方は4ケタの番号を決めておく）

(ア) 電話番号 ***-***-**** の伝言を録音します。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」のあと#（シャープ）を押してください。ダイヤル式の方はそのままお待ちください。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直してください。被災地以外の方は連絡を取りたい被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルしてください。

(イ) 伝言をお預かりします。ピツという音の後に30秒以内でお話してください。お話が終わりましたら数字の「9」のあと#

(シャープ)を押してください。伝言登録数が限度を超えた場合や追加登録規制中の場合には「新しい伝言を受け付けられない」旨のガイダンスが流れます。

(ウ) 「ピッ」の後に録音します。(ここで電話を切っても録音はされています)

(エ) 伝言を繰り返します。訂正されるときは、数字の「8」の後#(シャープ)を押してください。

(オ) 伝言をお預かりしました。

③再生の場合

(ア) 電話番号 ***-***-**** の伝言をお伝えします。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」のあと#(シャープ)を押してください。ダイヤル式の方はそのままお待ちください。なお、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直してください。

(イ) 新しい伝言からお伝えします。伝言を繰り返す時は数字の「8」の後#(シャープ)を、次の伝言にうつるときは数字の「9」のあと#(シャープ)を押してください。(続けて8あるいは9の操作をします)

(伝言がすべて終わった場合)

伝言を追加して録音されるときは数字の「3」の後#(シャープ)を押してください。ピッ (録音の仕方は上記録音の場合と同じ)

(2) 外出時の被災したときの避難方法

①道路

多くの建物や街路樹等が倒壊する場合があります。歩道上に飛び出して倒れる、電柱が折れて電線が垂れ下がってくる等の危険が発生します。移動する際は必ず複数の人数で助け合いながら移動します。足もとばかりでなくガラス窓の破片や瓦などの落下を考え頭をバッグなどで守りながら建物から離れて移動します。避難する車や緊急車両の通過に注意します。

②橋の上

揺れが収まるまで欄干や縁につかまります。収まったら速やかに橋の上から移動します。決して橋の上から飛び降りたりしないようにします。

③山の中

登山やハイキング最中に揺れを感じたら樹木などにつかまり収まるまで待ちます。すぐに移動せず周囲を確認します。落石や土石流が揺れの直後に起こる可能性があります。

また河川の近くであれば決して下流域に逃げず、横に移動します。大きな石の近く等には近づかないようにします。

④鉄道など公共交通機関

橋脚が倒壊して落橋する、脱線・横転事故等から不通になる場合があるので駅アナウンスを聞き迂回路や帰宅ルートを知る必要があります。避難した多くの人の群れなどで出入口が混雑し移動が困難になります。押しあわないことが大切です。特に階段では重大な事故につながります。

電車・バスに乗っているときに地震等災害に遭遇したら次のように対応します。

- (ア) 窓際から離れ、手すりや吊り皮につかまります。
- (イ) 姿勢を低くして、バッグなどを頭と首筋にあて、網棚からの落下物や急停車に備えます。
- (ウ) 原則として係員の指示に従います。
- (エ) 万が一火災が発生した時は、車両ごとに設置してある消火器で初期消火に当たります。それでも煙が充満してきた場合は、直ちに係員に知らせ、非常用手動扉開閉器を操作して外に脱出します。

ただし火災が発生していないのに、あわてて非常用手動扉開閉器を操作して外に飛び出すのは危険です。電車・バスと線路・道路との段差はかなり高いので怪我をする恐れがあります。

また反対車線の列車や車が暴走してくる可能性もあります。地下鉄などは運転席や車掌席の近くに非常用脱出タラップがついていますので、いつも乗る電車であらかじめ確認しておきます。

⑤エレベーター・エスカレーター

すべての階のボタンを押し、停止した階ですぐに降ります。その際にエレベーターと床の「ずれ」が起きている場合もあるため、あわてて飛びださないようにします。万が一ドアが開かなかった場合は、あわてず非常呼び出しボタンを返答があるまで押し続けます。つながらない場合は落ち着いて笛やライトを利用して周囲に知らせます。

また携帯電話は多くで使用できるようになっていますのでエレベーターの操作板に書いてある電話番号にかけてエレベーター番号を伝えます。

最近のエレベーターは非常用ライトなどが装備されていたり、ドアが透明になっていたりしています。

又エスカレーターは自動停止します。急な停止ではなく緩やかに停止しますので、あわてないで上あるいは下に移動します。その際余震などのことも考えてベルトは掴みます。

⑥地下街

地下は地上に比べて揺れは小さいと思われれます。壁や太い柱に寄りかかり頭をかバンなどで保護します。揺れが収まったら係員・管理者に従って避難します。停電になっても非常灯や音声(声)での案内を落ち着いて聞き、避難します。

また外に通じる階段は基準で60メートルごとに設置されています。地上では周囲を確認してから外に出ます。

⑦デパートやスーパー

多くの商品が陳列棚から落ちてきたり飛んできたりするのでできる限り離れ、壁や太い柱に寄りかかり頭をかバンなどで保護します。

揺れが収まったら係員・管理者に従って避難します。その際に指定の共有スペースや駐車場等へ誘導されますが、あわてず周囲と協力して移動します。

⑧ホール・劇場・映画館

出入り口や足元などに段差があったり、狭かったりと構造上に歩きにくい場合がありますので絶対に押しあわずに移動します。

